

2025年度(第1回)

学校関係者評価委員会評価報告書

(2025年度自己点検・自己評価)

令和7年9月30日

学校法人 朝日医療学園
朝日医療専門学校広島校

2025年度 朝日医療専門学校広島校

第1回 学校関係者評価委員会

(委員)

氏名	所属	任期	種別
土方 政幸	公益社団法人広島県柔道整復師会 理事 (うじな東巴堂鍼灸整骨院 院長)	2025年4月1日 ～2026年3月31日	企業・業界団体
河部 眞利	外国人技能実習機構 広島事務所	2025年4月1日 ～2026年3月31日	高等学校校長経験者
中村 崇弘	己斐なかむら鍼灸接骨院 院長	2025年4月1日 ～2026年3月31日	本校卒業生
小林 幸子	株式会社 仁保製作所	2025年4月1日 ～2026年3月31日	学生の保護者

評価項目別結果 1:不適切 2:やや不適切 3:ほぼ適切 4:適切

(1)教育理念・目標(教育理念、目標、育成人材像)			自己評価点	学校関係者評価点
現状・課題	今後の改善方策	学校関係者評価	3	4
<p>教育理念や教育目標等については、本年度においても教務部が主体となり、新年度に実施する学年別ガイダンスにて教育訓練の一環として周知するようブラッシュアップに努めた。また、入学式等の行事での挨拶、学生便覧へ記載、校内掲示(1Fロビー、教職員室)及びホームページ上へ掲示することを徹底し、学生および保護者にむけて周知継続を図っている。</p>	<p>今後は例年実施するガイダンスで感じた課題点をより良いものにするべく、教職員全体の意識を高めたうえで改善点を模索していきたい。ただ一度の意識づけでより良いものにできることではないことを念頭に、組織全体で周知継続を実践していく。</p>	<p>現状、問題点や指摘する点はなし。</p>		
特記事項 なし				
(2)学校運営(運営方針・運営組織・情報管理)			3	4
現状・課題	今後の改善方策	学校関係者評価		
<p>学校運営に関しては、本年度より施行の改正「私立学校法」の精神に則り、学園の評議員会・理事会のメンバーに新たに外部から人材を登用し、より一層のガバナンス強化に取り組んでいる。また、今年度より文部科学省から「職業実践専門課程」に認定されたことを踏まえ、より透明性の高い学校運営とその情報の公開に努めなければならない。</p>	<p>新メンバーで構成する評議委員会および理事会で承認された経営方針や事業計画を、広島校に落とし込み、各部門毎に目標を設定し、また目標達成のための方策を立案し、達成に向けて取り組んでいく。また、常に学生ファーストを意識し、教職員・学生からの意見も取り入れながらフレキシブルな学校運営を行っていく。</p>	<p>今年度より文部科学省から「職業実践専門課程」に認定されたことを評価したい。今後も多方面に評価される学校運営をされることを期待したい。</p>		
特記事項 学生からのアンケート結果に関する部分でも可能な限り学生の意見には回答し応えていきたい。				
(3)教育活動(目標設定、カリキュラム編成、成績評価、単位認定、資格取得の指導体制)			3	4
現状・課題	今後の改善方策	学校関係者評価		
<p>年間を通して補習・チューター体制を整え、継続的に指導を行っている。第3学年については、月1回、模擬試験を実施し、学習状況を把握するとともに国家試験への意識付けを行っている。講義時間割を工夫することで、教員の時間の確保および空き教室を確保することができるようになり、昨年度に比べて補習をスムーズに行えるようになった。</p>	<p>補習参加率をどのように向上させ、学習内容の理解深化に繋げていくかを検討していく。 また、「どのように勉強したら良いのか分からない。」という学生が増えており、学習習慣を身に着けさせるためにも第1学年から継続的に指導していく必要がある。</p>	<p>補習等の学生支援に関して、教員の業務負担や場所の確保などさまざまな問題を抱えながらも臨機応変に対応されていることを評価したい。 学生の多様化も進み対応も困難な局面も多くなっていることは承知の上だが引き続き根気強く学生の教育に励んでいただきたい。</p>		
特記事項 授業を欠席したり、補習に参加しない学生の成績は不良になる傾向は明らかなので、普段から細やかな学生への指導や声かけが今後も続けていきたい。				

(4)学修成果(資格取得率、就職率、退学率、学生の社会的活動)				
現状・課題	今後の改善方策	学校関係者評価		
就職希望者に対する就職率は100%を維持している。 退学者は今年はいないが、課題がある学生もいることから、今後も可能な限り退学者発生抑制に努める。 両学科ともに特別講義および同窓会と連携したセミナーが充実してきており、国家資格取得や卒業後の進路選択に向けた意識付けを行っている。	実質合格率の向上および退学率5%未満を維持するために、成績不良者に対する面談や指導を丁寧に行っていく必要がある。 また、柔道整復学科午前コースにおいて、専門実践教育訓練の講座指定を受けることを目指す。	今年退学者が現在いないことに関しては評価したい。今後も退学率抑制に取り組んでいただきたい。 専門実践教育訓練の講座指定に向けてということではないですが、低迷している実質合格率の向上に関して改善策を練っていただきたい。	3	3
特記事項				
退学率の抑制と合わせて入学率に対する国試の合格率である実質合格率を向上することが現状の課題であると認識している。受験生だけでなく、2年時からの計画的な学力向上への施策を考える必要がある。				
(5)学生支援(就職・進学支援、健康管理、学生生活・相談、保護者との連携、卒業生支援)				
現状・課題	今後の改善方策	学校関係者評価		
就職支援については、担任・キャリア担当者が第3学年の学生全員の進路希望の聞き取りと面談を行い、学習状況に応じて指導を進めている。また、求人票の閲覧(掲示や案内)や管理、学生に対する指導に「CareerMap」を導入し、学生が不安を抱えることなく、Web上で求人情報を検索できる仕組みを導入している。 健康面での不安を抱える学生がいることに加え、生活習慣に課題がある学生も増えてきていることから、学科全体で情報共有を行い、複数人で指導している。	学生の多様化が進んでいるが、面談や普段のコミュニケーションを通して各学生の状況を把握し、丁寧な指導に繋がっていくことが今後も必要である。	高校年代でも学力低下が進んでおり、学生全体の学力低下はもちろんクラス内での学力差に対する対応に関しても苦慮されていることは把握できました。目の前の勉強や国試合格というだけでなく、就活に関するセミナーやイベント参加、現在盛んに行われている外部からの特別講師による授業など、学生の将来を見据えた支援をさらに取り組んでいただきたい。	3	3
特記事項				
郊外での就職ガイダンスの参加や校内での就活に関するセミナー開催や外部講師の招聘など、近年取り組みは増えていますが引き続き学生の就職等の将来を考えるための企画を考えていく必要がある。				
(6)教育環境(施設・設備等、学外実習、防災・安全等)				
現状・課題	今後の改善方策	学校関係者評価		
西広島駅南口西地区周辺の再開発事業が都市決定し、竣工に向けた動きが見えてきた。本校においては、経年劣化による修繕及び安全・防災面の老朽化対策については、予算を慎重に計上し、適宜計画的に進めている。 ソフト面における教育環境の改善については、出欠状況や成績を閲覧するWeb機能の改善点をブラッシュアップし学生・保護者目線での運用と修正に備え実施した。	ハード面における教育環境の改善及び修繕においては、再開発事業の進捗状況を見据え適宜対応していきたい。 ソフト面における教育環境の改善を前提として導入した出欠状況や成績が閲覧できるWeb機能の改善が実際に効果的に運用できているのかを注視する。学生本人だけでなく、保護者の閲覧も少ないと感じており、欠席超過する学生がいる事実に対処する方策を	現状、問題点や指摘する点はなし。 移転計画の内容については、未だ不透明な部分も多いが、引き続き年度予算に沿った適切な設備投資(改修)を実行していただきたい。	3	3
特記事項				
学生や保護者がWeb上で出欠・成績などが閲覧できる機能を昨年度より採用しているが、特に保護者に関して利用状況等の確認が必要がある。移転の問題等もあるが、施設面の要望に関しても必要なところを精査しながら対応している。				
(7)学生の募集と受け入れ(学生募集活動、入学選考、学納金)				
現状・課題	今後の改善方策	学校関係者評価		
2年連続で本校の募集は苦戦しているのが現状である。18歳人口の大幅な減少・県内外の大学・専門学校との攻勢・一般企業の求人数の大幅増加といった様々な要因がある。それらの要因&結果を踏まえ、今年度の募集活動は昨年度から募集担当を増員し、校内・会場ガイダンスへの参加増・募集エリア拡大・スポーツチームサポート・治療院訪問・早期からの高校訪問といった広報活動を強化することでオープンキャンパスへの動員へ注力した。また、入試制度を大幅に変更(受験しやすい入試制度)とスカラシップ試験(特待生試験)などの告知もガイダンス・HP・SNS等で行った。結果は前半の募集活動において重要である4月～8月のオープンキャンパスへの動員数は昨年より30%増(一昨年より50%増)の結果となった。各回毎に安定した高校生の動員数を確保し、入試説明・保護者説明などで丁寧な対応ができたと思われる。ただ、同様の事はライバル校でも考えられるので今後の出願(10月～)における歩留まりをどれだけ抑えられるかが課題となる。	今後開催(9～12月)されるオープンキャンパスでは進路未定の高校3年生、早期の進路選択のため早めに動く高校1・2年生、これから動きが活発化する社会人の動員や個別相談対応に注力することが重要である。また、4～8月のオープンキャンパス参加者(高校3年生)の出願率を上げるための公式LINEによる細かなフォローや紹介してくれた高校教員や治療院の先生への挨拶まわり等を行うことで入学希望者の取りこぼしが無いようにする必要もある。さらに、ホームページ・SNS等で学校の雰囲気やゼミ・サークル・クラブ・臨床実習などの朝日の強みや取り組みといった他校との差別化を明確にした情報発信を継続する。そして、次年・次々年度の学生募集のために高校1・2年生の校内・会場進路ガイダンスへも積極的に参加し、さらにスポーツチーム&部活動サポートなども可能な限り行うことで未来の入学候補者である高校1・2年生との接触の機会を極力増やしていく予定である。	18歳人口の大幅な減少による社会情勢等があり例年苦慮されているとさせていただきます。 現状のオープンキャンパス動員数は昨年度よりも増加しているということはSNSや日頃の広報活動の賜物だと思います。しかし実際の受験者数につながるかが大切であるのでその数には注視していきたい。 社会人の募集には「教育訓練指定講座」がかなり大きなインパクトを持っていると思いますので、是非指定に向けて引き続き学生の指導をお願いしたい。	3	3
特記事項				
新しい入試制度等も含めて学校の魅力を発信できるようにSNSなど情報発信を活発に行なっていく必要があると認識している。				

(8)財務(財務基盤、予算・収支計画、会計監査、財務情報公開)			3	3
現状・課題	今後の改善方策	学校関係者評価		
財務基盤については、公認会計士の監査を受け、評議員会および理事会にて審議を実施し承認を得ているが、総学生数の減少により学納金収入が減少しており、増収増益といえる状況ではないため、財務状況が厳しくなるとの指摘を受けている。また、本校においても、昨年度は退学者の抑制はできたが、入学者数減少の情勢もあり、財務基盤の柱となる学納金収入は減収している。	本校の事業収支予算については、各部署で詳細に科目予算を立案し、対前年比を意識した予算計画を計上し、無駄な支出を抑えた予算執行を実施する。具体的には、対前年予算比は全体で△6.4%と策定する。また、次年度における本校学生数の初期人数は総学生数245名の確保を絶対値として、退学者数の抑制および新入生数の確保を図り、学納金増収に向け状況の改善を果たしていく。	学生数の問題を抱えながらですが、コストカット等に努められ、財務状況に関して適切な事業遂行に努めている点を評価する。 目標とする退学率5%以内の抑制においても、引き続き手厚いサポートで退学者数の抑制につながることを意識してほしい。		
特記事項 全体的な財務状況を常に意識し事業遂行を実践していく。				
(9)法令等の順守(個人情報保護、学校評価)			3	4
現状・課題	今後の改善方策	学校関係者評価		
学校教育法施行規則の専修学校設置基準に則り、適正な運営を実施している。また、各学科における課題解決に当たっては、各々の養成施設指定規則との整合性を図り、コンプライアンスを徹底している。	引き続き教職員の適正人員の確保と配置に気を配りつつ、イレギュラーな対応に迫られることのないよう準備と対策を実施しておく必要がある(休職対応など)。	現状、問題点や指摘する点なし。□		
特記事項 さまざまな問題への対処がある中でも法令や養成施設指定規則との整合性を図り、コンプライアンスを徹底するように教職員一人ひとりが意識する必要がある。				
(10)社会貢献・地域貢献(社会・地域貢献、生涯学習、ボランティア活動)			3	4
現状・課題	今後の改善方策	学校関係者評価		
地域住民を対象とした100歳体操は現在100名を超える高齢者の皆様に参加頂き、広島市内最大規模の教室となった。また、その他近隣のコミュニティから様々な要請を頂戴し、可能な限り参加させていただくことで地域貢献に努めている。今後は更に地域に必要な教育機関となるべく、地域貢献はもとより、障がい者スポーツのサポートなど本校の強みを活かした活動も積極的に取り組んでいく。ただ、活動を進めていく中において、各イベントごとで人員を確保することには毎回苦心している。このような活動はあくまでもボランティアであり、強制的に参加するものではないので教職員・学生のボランティア精神の醸成が大きな課題となっている。	ボランティア活動は参加して初めてその必要性を理解できるものであり、ボランティア部を中心としたこれまでの活動に加えて、教職員・学生に対してポスターの掲示やクラスルームへの投稿等により全校で情報を共有し、参加を促していきたい。また、今後本校全体の活動として発展させていくためには、費用面の予算化も検討していく必要がある。	学校と行政が連携を図りつつ、主体性を持った学生による地域貢献活動は年々その活動が盛んになっており素晴らしい活動であると評価する。 100歳体操や地域の祭りのサポートなど教職員の業務の負担になる部分も多か労とは思いますが、学生とともに継続して活動をおこなっていただきたい。		
特記事項 学校が存続していくためにも、行政や地域との連携は欠かせない。そのことを教職員はしっかり意識して日頃から業務にあたっていく必要がある。また積極的に学生にも参加してもらるように広報や環境整備にも努めたい。				

総合的評価結果

特に大きな問題はなく健全な学校運営が図られている。